

第224話 達磨寺田植踊り その6 中山町歴史散策

達磨寺田植踊りの曲目と歌詞の続きとなります。

○花早乙女の鳥づくし

頭取様は雄蝶か女蝶か、孔雀鳳凰金鶏鳥。いずれまほ鳥、拍手とり、辺りをとりし御田植。畦につきたる白鳥は、げに駒鳥か。千鳥足取り歩いてこっちは小鳥小雀で、口はチュンチュンカラカラス、山がら小がら四十がら、てますまめすみそささい、褒める言葉は白鷺の、顔には紅をぬりつけて、ホ、ホツというとりは門に立つ、ふくろを持つとは、ホツ敬つて褒め申そう

○返しことば

東西東西イ、只今いずこの何人様かは存じねど、我々風情の田植に花づくし（又は鳥づくし）のお褒め言葉くだし置かれ、有難く大慶至極に存じ奉ります。何を致しましても田植最中の事なれば、早速御礼にはあがり兼ね、田植すぎサナブリとも相成る節は、あなたは何処にごさろうとも、酒肴を整え御名をたずね、ゆるくしつぱりとの御礼、先ずは田植にさせかからせましょう 皆々精だせく

花笠舞と附

達磨寺田植踊の特徴として、男舞の枅取舞と女舞の花笠舞とがつくことである。

○花笠舞の歌詞

へハア、ズン／＼テン／＼、ズン／＼テン／＼ヤーホエ、忍び待つ夜の楽しさは、せめてサツサ、イヤ、ねまつと、生長、オンオン、お双松の松よ、なかに小松と思いしか、イヤソレ／＼／＼、そうじゃないな

へハア、ズン／＼テン／＼、ズン／＼テン／＼ヤーホエ

笠よ笠よと皆おしゃんけれどもなあ、ハツ、ズン／＼テン／＼、ズン／＼テン／＼ヤーホエ、笠をさしようなら三階の、雨のサツサ、イヤ、降る笠、生長、オン／＼お日の照る笠よ、よろ（お前）とわしとの忍び笠、イヤソレ、ソレ／＼／＼、そうじゃない可愛いらしさの花娘

次号に続く

※引用 中山町史 中巻

第10章第4節 民俗芸能と娯楽

私たち地域おこし協力隊です！ No.90

おかげさまで。季節が春めいてきて、中山町に移住して3度目の『雪と己との戦い』が終わった気分です。晴れ間が多く、夜空の星を何度も見ることができたシーズンだったと思います。「雪が少ないと水不足の心配がある」と耳にし、私は大自然の中に生かされているのだと感じました。

活動中は人に会って話す機会が少ないので、なんとなく顔の表情筋が緩んだ気がしています。だからひとりで居るときもなるべく意識して笑顔でいるようにしていますが、誰もいないのにニヤニヤしてパソコンに向かっていてちょっと怪しい感じですよ。7年前に『笑いヨガ』を学んだことを思い出しました。作り笑いでも脳は笑っていると勘違いして幸せホルモンを出すそうです。久しぶりにそれをやってみたらウキウキしてなんだかとても楽しい気分。寂しさも吹っ飛び、やる気が戻ってきました。

このウキウキ気分は、好きなことに夢中になることでも幸せホルモンを引き出すらしいのですよ。私の場合は、それが『推し活』に当てはまる！あ～かぶくんに出たいな～。あ～あの可愛いお目目から元気をもらいたいな～。かぶくんはどこにいるの？誰か教えてえ～！この1年で1度しか会えていないのよ…7月にしか会えないって織姫と彦星か？！



阿部美恵子

出身地：栃木県鹿沼市
趣味：高校野球観戦



●協力隊への問い合わせ先● 阿部 ☎662-4271（総合政策課）